

中学1年生が「高志学」宿泊研修を行いました

5月14日（火）～16日（木）の3日間、1年生が宿泊研修を実施しました。「89人の絆の輪～最高の協力と学びで～」を学年目標として、親睦を深めると同時に、これから始まる高志学に向けて学びの基礎力を培う研修となりました。

第1日目（5/14）

〔中池見湿地・金ヶ崎緑地〕

最初の目的地は金ヶ崎緑地です。金ヶ崎緑地は敦賀港のシンボル緑地で、海沿いに敷設されたボードウォークとボードデッキからは敦賀港を一望することができます。天気にも恵まれ、生徒たちはスケッチをしたり俳句を詠んだりしました。次に訪問したの



は敦賀市中央部にある中池見湿地です。2012年にラムサール条約湿地に登録された中池見湿地は、市街地にほど近く、周りを山に囲まれた25ヘクタールほどの小さな湿地です。バスの駐車場から湿地までは少し離れていましたが、生徒たちは頑張って歩きました。湿地の中に田んぼがあり、畦道を歩きながらトノサマガエルやメダカなどの動物を観察しました。多様な生態系を学んだり、ビジターセンターの係員の方からザリガニ駆除の必要性も学んだりしました。

〔かるた・レザークラフト・オリエンテーリング〕



3日間お世話になる三方青年の家に到着し、入所式と昼食の後は、ローテーションでクラス毎に「かるた」「レザークラフト」「オリエンテーリング」を行いました。計画では「かるた」でなく「ボート」を体験する予定でしたが、風が強いためボートは中止となりました。ボートを楽しみにしていた生徒にとっては残念でしたが、福井に関するかるたで盛り上がっていました。レザークラフトでは、それぞれが選んだ刻印を木のハンマーでたたいて型押しをして模様をつけ、色付けをしてから仕上げをしました。オリエンテーリングでは、青年の家の中や外を班で周りながら協力してキーワードを集めて答えを考えていました。

〔野外炊さん（カレー作り）〕



夕方から野外炊さんでカレー作りを行いました。学年全体で8班、各班員は炎チーム・具材チーム・飯チームに分かれて、カレーを作りました。青年の家の職員の方から丁寧に説明をしていただき、手際よく調理を進めていたものの、ご飯が炊きあがるまで時間がかかりました。炊きあがったピカピカのご飯を見るとどの生徒も満足そ

うな表情をしていました。カレーができあがった後は、みんなで存分に堪能しました。

夜はお風呂に入ったり、今日1日の振り返りをしたり、定期考査の学習をしたりしました。初日は体力が必要な場面が多く、生徒たちもしっかり休んでいたようです。

第2日目（5/15）

2日目は、屋外での朝の集いから始まりました。実行委員が今日の目標や昨日の反省をスピーチし、体操をしました。その後、各クラスの代表者が有志で作成した学級旗の紹介と披露を行いました。



〔熊川宿〕



ガイドさんに各クラス一人ずつついていただき、熊川宿を歩きながら説明をお聞きしました。主な建築物や施設として、熊川番所、宿場館、前川があり、中まで入ることはできませんでしたが、江戸時代から続く伝統的な町並みの熊川宿を見学し、ふるさと福井の歴史を学ぶことができました。

〔縄文博物館〕

縄文博物館ではクラスローテーションで3つの活動を行いました。

博物館見学では、1クラス2グループに分かれ、講師の先生の案内・解説のもと館内を巡りました。館内には実物もたくさん展示されており、漆工芸や織物、船作りなど思っていたよりも高度な文化があり、自然に敬意を払って大切にしていた縄文時代の生活に驚いていました。生徒たちは事前に考えてきた問いについて、積極的に質問し、メモを取っていました。



火おこし体験では、道具を使って摩擦力を利用して火種を作り、それをもとに火をおこしました。3人一組で行いましたがなかなか難しく、指導員の方に助言をいただきながら諦めず取り組み、火を付けることができました。もちろん縄文時代にこのような道具があるわけではなく、火の貴重さや重要性を実感していたようです。

勾玉作りでは、柔らかい滑石という石を砥石とサンドペーパーで削って形作って磨き上げ、完成後は、作品を首に提げ誇らしげな様子でした。実際に出土する勾玉は翡翠などの硬い石だということで、製作の労力を考えると、当時は本当に大切なものだったということが分かったようです。



夕方に青年の家に帰り、「絆の輪を広げよう」という目的のもと学年レクレーションを行いました。レク係が主導し「王様ドッジ」や「クイズ大会」、「借り人競争」を行って、盛り上がっていました。
夜は、集中して1日の振り返りをまとめていました。

第3日目 (5/16)

〔年縞博物館・三方五湖と水産業の講義〕

最終日は2つのグループに分かれ活動しました。

年縞博物館では、学芸員の方による詳細な解説を聴きながら、博物館内を丁寧に見学しました。初めて年縞を見る生徒も多く、気候によってプランクトンや花粉の厚みや色が変わること、遠く鹿児島県の火山灰も飛んできていること、そしてそれがこの福井に残って偶然見つけたり世界的に活用されていることに驚き、学問的価値の高さに深い関心を寄せていました。



三方五湖と水産業の講義では、三方五湖で実際に漁をされている方からお話をお聞きしました。漁のための網を見せていただいたり、ウナギのとり方を教えていただいたりしました。



以上のように十期生の「高志学」宿泊研修は天気にも恵まれ、大変充実した3日間の研修となりました。生徒達は最後までとても元気で、笑顔一杯でした。十期生の89人、一人ひとりがお互いのことを思って協力し合うことで、それぞれの視点から見えた「ふるさと福井」に関する学びが掛け合わさったり、深まったりしていきました。同時に、これから始まる高志学に向けて学びの基礎力を培う研修となりました。